

「繋がる^{つるじ}弦児*ビリヤード」

※弦児・・・弦巻児童館の愛称 (担当：世田谷区子ども・若者部児童課)

事業の背景・目的

児童館事業に深い理解と愛情を持ち、ビリヤードにより児童健全育成と一緒に推進して下さっている地域協力者が、地域からの寄付によるビリヤード台を活用し、「ビリヤード」を通じて、児童館が推進する児童健全育成に寄与してくれている。職員は児童と同じようにビリヤードの歴史、ルール、マナー、基本的技術や道具のメンテナンスなど、地域協力者の講義等を通じて基礎を学び、児童館オリジナルの入門試験（J2）合格後、晴れて「9ボール」などのゲームや指導ができることとしている。本事業は、地域協力者の指導のもと、弦巻児童館で長年引き継がれており、壁には「入門試験（J2）合格者」191名、「上級試験（J1）合格者」8名、「ビリヤードマスター」1名の名札が飾られている。一度合格すれば、久しぶりの来館であってもゲームに参加できることにしており、年齢や学校を超えて子どもたちや地域との交流が広がる弦巻児童館の特徴的な事業になっている。新型コロナウイルス感染拡大防止のために一時期は事業を中止にしていたが、令和2年10月には5ヵ月ぶりに再開し、地域協力者と子どもたちが満面の笑顔で再会を果たすことができた。

事業の概要

【内 容】

- | | |
|------------|--|
| 1 入門試験 | 対象は小学4年生以上の児童。合格すると「J2」として壁に名札を飾ることができ、合格者の自信につながっている。
入門試験は適宜実施し、子どもたちの参加意欲を高めている。 |
| 2 上級試験 | 合格すると「J1」になる。 |
| 3 地域協力者と対戦 | 毎週土曜日午後開催 |
| 4 ビリヤード大会 | 年3回（春、夏、冬）程度開催
優勝者は名札が紙から木札になり上達心をくすぐられる。 |
| 5 日常の遊び方 | 事務室にある申込書に名前を記入する予約制。1時間交代。
「入門試験」を合格した子ども同士でプレーが可能。 |

【実施場所】ドリームコーナーの一角にビリヤード台やお洒落な椅子、ゆったり座れるソファ等を置き、ビリヤード場の雰囲気醸し出している。

【職員体制】来館者数やその時の状況に応じて、ゲーム参加や入門試験の実施を決めているが、基本は、子どもたちの「気持ち」に応じるように協力体制をとっている。

工夫点・留意点

- 1 「J2」資格保持の児童同士が、地域協力者から教わった「物品の扱い方」「挨拶などの礼儀作法」「マナー」などを自主的に実践し、ゲームを楽しめるようサポートしている。
- 2 子どもたちが自主的に助け合いながら運営し遊びが成立しているときは、職員は見守りに徹し、子どもたちの自主性を大切にしている。
- 3 児童が来館者の中から「J2」資格を持つ対戦相手を誘いやすい雰囲気づくりをするほか、声掛けもするなど、ビリヤードによる楽しい時間を過ごせるようにクリエイティブしている。



事業の効果

- 1 子ども同士でルールや玉の打ち方を教え合い、学校・学年を超えた交流の場になっている。
- 2 配慮を要する児童も3ヶ月かけて入門試験に合格し、今では上級生と一緒に試合を楽しんでいる。
- 3 ビリヤードを通して地域協力者と信頼関係が深まった子どもたちが、保護者の了解を得て、地域協力者が携わっている地域の祭りなどの行事を手伝い、活躍の場を広げている。
- 4 コロナ禍で地域協力者が来館を控えていた長い期間も、子どもたちの地域協力者に対する尊敬や「弦児のビリヤード」に対する敬愛の念は途切れることなく繋がり、ビリヤードを楽しむ文化が育まれている。

課題・今後の展開

ビリヤードは、体力の優劣や年齢によって勝敗が左右される要素が少なく、子どもを含む幅広い年齢層が楽しめることからユニバーサルスポーツとも言える。これらの特徴は、児童館の多世代が集まる活動にも適合しており、子どもたちがビリヤードを楽しみながら、「ユニバーサルスポーツ」の中に息づくノーマライゼーションの考え方を自然と学べるように、今後も繋ぎ、事業を展開していく。

また、1人でボールに向き合い、今で言うところの「全集中」や「プレッシャーに負けない精神力」を必要とするメンタルスポーツ・ビリヤードを通じて、子どもたちが様々なプレッシャーが付きまとう現代社会の中でも健やかに成長していけるよう地域の協力を得ながら児童健全育成を一層推進していく。